

平成23年度 教育事務事業点検評価報告書

平成25年3月
宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	3
事務事業点検評価書		
1. II-1 宮古島市立教育研究所での職員研修事業	・・・・・・・・	4
2. II-2 学力向上対策事業	・・・・・・・・	5
3. II-3 校務支援システム整備事業	・・・・・・・・	6
4. II-4 学校選手派遣補助金交付事業	・・・・・・・・	7
5. II-5 スクールソーシャルワーカー活用事業	・・・・・・・・	8
6. II-6 特別支援事業	・・・・・・・・	9
7. V-1 「宮古島市放課後子ども教室」事業	・・・・・・・・	10
8. V-2 成人式事業	・・・・・・・・	11
9. V-3 追い込み漁・鰹一本釣体験学習事業	・・・・・・・・	12
10. VI-1 社会教育指導者研修会	・・・・・・・・	13
11. VI-2 子ども博物館	・・・・・・・・	14
12. VI-3 図書館の基本サービス・行事の充実	・・・・・・・・	15
13. VI-4 公民館管理運営事業	・・・・・・・・	17
14. VIII-1 文化祭事業「児童・生徒の部」「一般の部」	・・・・・・・・	18
15. VIII-2 文化財保護活動事業	・・・・・・・・	19
16. VIII-3 宮古島市こども劇団設立事業	・・・・・・・・	20
17. VIII-4 文化ホール自主文化事業	・・・・・・・・	21
18. VIII-5 企画展	・・・・・・・・	23
19. IX-1 砂川小学校校舎改築事業	・・・・・・・・	24
20. IX-2 平良中学校校舎改築事業	・・・・・・・・	25
21. IX-3 池間小中学校校舎改築事業	・・・・・・・・	26
22. IX-4 西辺幼稚園園舎改築事業	・・・・・・・・	27
23. IX-5 宮古島市教育委員会の活動	・・・・・・・・	28

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第27条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策9項目のうちから23事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成25年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、次年度の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成23年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- | | |
|------------------|---|
| I 「生涯学習の推進」 | 潤いと生きがいのある生涯学習社会をめざして |
| II 「学校教育の充実」 | 自ら学ぶ意欲を育て確かな学力の向上をめざすとともに豊かな心の育成をめざして |
| III 「家庭教育の充実」 | 保護者が子どもの教育により密接に関わる事をめざして |
| IV 「国際化・情報化への対応」 | 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成をめざして |
| V 「青少年の健全育成」 | 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の育成をめざして |
| VI 「社会教育の充実」 | 家庭・地域の教育機能の活性化をめざして |
| VII 「スポーツの振興」 | 市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりと健康の保持増進及び体力の向上をめざして |
| VIII 「文化の振興」 | 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして |
| IX 「教育行政の充実」 | 新しい時代を展望した教育行政をめざして |

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の五段階で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

2. 事務事業評価一覧表

評価書 番号	所 管 課	事 務 事 業 名	評価
Ⅱ－1	学校教育課	宮古島市立教育研究所での職員研修事業	A(拡充)
Ⅱ－2	学校教育課	学力向上対策事業	A(拡充)
Ⅱ－3	学校教育課	校務支援システム整備事業	A(拡充)
Ⅱ－4	学校教育課	学校選手派遣補助金交付事業	A(拡充)
Ⅱ－5	学校教育課	スクールソーシャルワーカー活用事業	A(拡充)
Ⅱ－6	学校教育課	特別支援事業	A(拡充)
V－1	生涯学習振興課	「宮古島市放課後子ども教室」事業	A(拡充)
V－2	伊良部分室	成人式事業	B(継続)
V－3	伊良部分室	追い込み漁・鯉一本釣体験学習事業	C(改善)
Ⅵ－1	生涯学習振興課	社会教育指導者研修会	A(拡充)
Ⅵ－2	総合博物館	子ども博物館	A(拡充)
Ⅵ－3	市立図書館	図書館の基本サービス・行事の充実	B(継続)
Ⅵ－4	市中央公民館	公民館管理運営事業	A(拡充)
Ⅷ－1	生涯学習振興課	文化祭事業「児童・生徒の部」「一般の部」	B(継続)
Ⅷ－2	生涯学習振興課	文化財保護活動事業	A(拡充)
Ⅷ－3	文化ホール	宮古島市こども劇団設立事業	A(拡充)
Ⅷ－4	文化ホール	文化ホール自主文化事業	A(拡充)
Ⅷ－5	総合博物館	企画展	A(拡充)
Ⅸ－1	教育施設課	砂川小学校校舎改築事業	E(完了)
Ⅸ－2	教育施設課	平良中学校校舎改築事業	E(完了)
Ⅸ－3	教育施設課	池間小中学校校舎改築事業	E(完了)
Ⅸ－4	教育施設課	西辺幼稚園園舎改築事業	E(完了)
Ⅸ－5	教育総務課	宮古島市教育委員会の活動	A(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

宮古島市立教育研究所での教職員研修事業

【目的・計画概要等】

- ・入所研修で個人のテーマに沿って半年の研修を行う。
半年を1期として年間2人の長期研究教員を受け入れる。
- ・教職員を対象とした研修会を開催する。
学校現場の課題に沿った研修会を開催する。
- ・教育文化講演会等の研修事業を行う。
教育の今日的課題について、講演会を開催する。
- ・教育情報の発信・研究所の広報を行う。
紀要・所報等の刊行、WEBサイトの運営により、教育情報の提供、研究所の広報を行う。

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・長期研究教員 前後期とも、公開事業、成果報告会を持ち成果報告書を作成・配布した。 (前期) 小学校理科で、見通しをもって問題解決に取り組む児童の育成を目指して授業研究をした。 (後期) 小学校国語科で、論理的な思考を培う読解指導についての研究をした。 ・琉球大学教育学部との連携のもと、琉球大学教授を招聘しての研修会を11回実施した。 ・研究所の広報は、要覧・リーフレット・所報の配布・WEBページの作成・公開により行った。 	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,490,486 円
計	1,490,486 円	

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	教職員の資質向上には教育研修施設が必要である。島を離れての研修が困難な教員が多い離島地域の本市においては長期研修施設の存在は、島の教育力向上に直結つながり意義は大きい。	研修授業や成果報告会に現場教員の参加も増え、研究内容についても詳しく学びに来る教員も増えた。また、成果報告書の作成・配布や長期研修を行った教員が、各学校の中核として、更に活躍することによって学校現場への波及効果もあった。大学教員の専門性を生かした研修会の開催が琉球大学との連携事業で行われるようになり、教職員の研究の充実、資質向上に貢献している。
効率性	長期研究教員の研修と関連させた授業研究会や琉球大学の協力を得た研修会等、費用を極力少なくした研修会を開催している。	
有効性	教職員の研修については参加人数も多く、内容については役に立ったという感想が寄せられており充実している。紀要の刊行や広報により、研究所が認知されてきている。	

【内部評価】

これまでの研究教員の検証授業等からも教職員の資質向上が図られてきていることは評価できる。しかし、これからの本研修所のあり方として本市の地域教材開発等に向けた研究のあり方を工夫していくべきだと考える。また、小中学校の教職員だけでなく幼稚園教諭も含めた研究所のあり方を検討していきたい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

公開授業や成果報告会の日程を事前に広く告知し、保護者や一般市民も参加できる場を設定し、市立研究所の活動内容や、果たしている役割と成果を報告できる機会を得たい。 教職員の資質向上のための研修にとどまらず、研究所主催の教育文化講演会、教育課題解決のヒントになるような講師を招いての勉強会や懇談会の開催、そして、より多くの教職員が研修できる体制づくり、幼児教育充実の為の幼稚園教諭の受け入れ等、果たす役割は重く、他の教育機関との連携も模索しながら学校現場の期待に応えられるよう事業の拡充を図って頂きたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

学力向上対策事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立各学校の幼児・児童・生徒一人一人に確かな学力などの生きる力をはぐくむことを目標に学校、家庭、地域との連携を基に、学力向上対策の事業を推進する。

【実施状況】

1. 宮古島市学力向上対策委員会および実践成果報告会の実施。 540,220円	決算額（財源内訳）	
2. 標準学力等調査の実施（5月・12月実施） 基礎・基本の学習内容を中心に児童・生徒の学習到達度を確かめ、指導改善に役立てた。 4,990,767円	国・県	円
3. 学力向上対策補助金交付 幼稚園・小・中学校へ補助金を交付することで、一人一人の確かな学力を育て、校（園）内の体制づくりの確立に役立てた。 また、確かな学力の定着および保護者負担の軽減を目的に、各種検定料の補助を行った。 8,817,550円	地方債	円
4. 総合的学習支援補助金交付 2,430,000円	その他	円
5. 地域発表会補助金交付 なし	一般財源	17,078,537 円
6. 県研究指定校補助金交付 300,000円 東幼稚園、城辺小学校、鏡原中学校	計	17,078,537 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	標準学力検査等による児童生徒の実態調査は本市の学力向上対策の重要な事業で各学校からの要望も高い。今後とも充実強化する必要がある。	標準学力検査を実施することで、各学校における児童生徒の実態や変容を把握することができる。各学校においては、それに基づき校内での指導体制を確立し学習指導に役立てている。今後も学校に対してアンケート調査を行い、諸検査の効果的な活用方法を考えていきたい。また、検定料補助金事業は、多くの児童生徒が漢字検定、数学検定、英語検定にチャレンジし、学力向上につながる取り組みとして期待が大きい。
効率性	現在の事業を継続しながら、各学校にアンケート調査を行い、ニーズに応じた学力向上対策事業を実施していきたい。	
有効性	全国学力・学習状況調査の結果から本市の児童生徒は県平均とほぼ同じである。今後は、本市の児童生徒の課題把握を十分行い効果的な事業を推進したい。	

【内部評価】

これまで標準学力検査の実施、学力向上対策補助金交付（各学校への補助や各種検定受験料補助）を行ってきた。しかし、平成24年度全国学力学習状況調査（抽出調査）では他府県と比べると多くの課題がある。十分な課題把握を行い、本市の児童生徒の学力向上に向けてさらに拡充していく必要があると考える。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

幼児児童生徒1人1人確かな学力などの生きる力を育む為のさまざまな取り組みがなされておりますが、その中での各種検定受験料の補助事業、研究指定校への補助事業等の効果について、学力到達度調査やアンケート調査を行い検証し効果的な事業の促進をする必要があります。又、就学前の幼稚園教育の推進についても、国、県とのすり合わせの中で、本市における幼児教育振興プログラムの策定をし、幼稚園教育を計画的に推進していただきたい。今後も学校、家庭、地域、学力向上推進委員会、宮古島教育事務所と連携し、学力向上への取り組みを推進していただきたい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

校務支援システム整備事業

【目的・計画概要等】

・教職員の事務軽減を目的として、校務事務の効率化・ファイルや情報の共有化を行う。また、クラウド技術を活用する事により予算の軽減化を図る。

・校務支援システム機能の内容

- | | | | |
|------------|-----------|---------|----------|
| ・学校日誌 | ・児童生徒出欠管理 | ・備品台帳管理 | ・連絡掲示板機能 |
| ・個人連絡掲示板機能 | ・指導要録 | ・学籍簿管理 | ・行事予定表 |

【実施状況】

・校務支援システム導入実績 ・平成23年度～平成28年度 総事業費 94,500,000円 平成23年度実績 9,134,875円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	9,134,875 円
	計	9,134,875 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	平成22年度に行った実証実験において、学校職員への聞き取り調査では「引き続き使用したい」とする職員が多数であった。	・行事予定、出席簿、掲示板機能を持ち、学校全体での情報共有及び校務の軽減がなされた。 ・連絡掲示板、個人連絡機能等で市立学校全体の情報共有が可能となり、各学校の教育の充実が図れた。
効率性	情報の共有において、ペーパーレス化を進めることが可能になった。	
有効性	センター型の校務支援システムを導入したことにより、市立学校全体及び各学校ごとの情報の共有及び校務の軽減が図られている。	

【内部評価】

現在のシステムに「指導要録」「学籍管理」等の機能が充実されていない。これからその機能を付加していく中でさらに各学校での教職員の校務負担軽減と教育の充実が図れると考える。そのため、拡充を図る必要がある。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

雑務の多い現場の校務負担軽減につながる校務支援システム導入は大変有り難い。そして、情報共有化による学習指導の充実と迅速化が期待される。 反面、個人情報の管理責任の重要性を常に意識し、公開項目状況チェックとマニュアル化は当然必要であろう。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価

課名： 学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

学校選手派遣補助金交付事業

【目的・計画概要等】

<目的>

宮古島市立学校での児童・生徒が沖縄県又は宮古地区代表として島外へ派遣された場合、派遣費の一部を予算の範囲内で補助することによって、スポーツ及び文化の振興を図るとともに、児童・生徒の健全なる育成に寄与することを目的とする。

<概要>

補助対象（地区・県・九州大会等で上位入賞3団体又は3人として上位大会に派遣される者、又は宮古地区代表（選抜等））

小学校	県内	一人当たり	5,000円	県外	一人当たり	28,000円
中学校	県内	一人当たり	8,000円	県外	一人当たり	35,000円

【実施状況】

(1) 小学校選手派遣補助金 (優勝・準優勝・第3位又は宮古地区代表に助成)	決算額（財源内訳）	
県内 5,000円×721名=3,605,000円 県外 28,000円×25名=700,000円 小計：4,305,000円	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
(2) 中学校選手派遣補助金 (優勝・準優勝・第3位又は宮古地区代表に助成)	一般財源	15,958,000 円
県内 8,000円×1,271名=10,168,000円 県外 33,000円×45名=1,485,000円 小計：11,653,000円	計	15,958,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	スポーツ・文化活動の一環として行われる島外派遣は希望する児童生徒が多い反面、他からの補助が少なく保護者負担も大きいことから市による補助のニーズは高い。	選手派遣補助事業については、平成22年度と同様の補助対象及び補助額であったが、学校・保護者からはおおむね好評である。
効率性	全派遣でなく上位団体のみを補助対象にすることにより、児童生徒の意識向上につながっている。	補助対象者が優勝・準優勝・第3位又は宮古地区代表とすることにより、島外へ派遣される保護者の負担軽減と児童生徒の目的意識を高めることができている。
有効性	選手派遣補助により派遣が行いやすくなり、保護者の負担軽減と児童生徒の意識の向上を高めることにつながっている。	前年度に比べ、小学校対象児童の島外派遣補助の需要が高まり、スポーツ面、文化面での充実が図られてきていると考えられる。 しかし、時期により高い旅費となる場合の保護者の負担増の現状も鑑み、今後とも派遣事業の在り方について検討する必要がある。

【内部評価】

前年度からの事業の見直し・改善が図られ、スポーツ面や文化面での児童生徒の活躍が見られる。しかし、派遣時期等により保護者の旅費負担が異なるなどの今後の事業のあり方について改善すべき必要があると考える。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

スポーツや文化、その他の面で、県外、島外の同世代の子供達との交流や切磋琢磨は児童生徒の意欲の高揚につながり、子供達の健全な育成に大きく寄与するものである。 日々の活動の中で目的意識を高めるためにも、本事業は拡充し保護者の負担軽減を図っていただきたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

スクールソーシャルワーカー活用事業

【目的・計画概要等】

問題を抱える幼児児童生徒に対して、関係機関・地域資源を活用し、問題の改善を図る業務内容。家族や学校から相談を受け、当該児童生徒が置かれた状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関との連携や、学校や関係機関を交えてのケース会議を開催したりするなど、多様な支援方法を用いて、問題解決を図る。

具体的には、教育相談が必要な場合は、市の教育相談室、まていだ教室、またはスクールカウンセラーにつなぐことと、保護者の経済問題には、生活保護の受給に関するアドバイスや手続きの助言などを行う。

【実施状況】

<p>平成23年度の支援状況として、①不登校、②登校しぶり、③いじめ、④暴力行為、⑤児童虐待(疑い)、⑥非行不良行為、⑦家庭環境問題、⑧心身の健康及び保健に関する問題(心因性)等へ、学校・福祉・医療等各関係機関との情報・行動連携し改善を図った。</p> <p>(1) 平成23年度支援学校数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>小学校</td><td>11校</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>9校</td></tr> </table> <p>(2) 平成23年度支援対象児童生徒数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>小学校</td><td>30名</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>33名</td></tr> </table>	小学校	11校	中学校	9校	小学校	30名	中学校	33名	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">決算額 (財源内訳)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">国・県</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地方債</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">その他</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">6,736,841 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">6,736,841 円</td> </tr> </table>	決算額 (財源内訳)		国・県	円	地方債	円	その他	円	一般財源	6,736,841 円	計	6,736,841 円
小学校	11校																				
中学校	9校																				
小学校	30名																				
中学校	33名																				
決算額 (財源内訳)																					
国・県	円																				
地方債	円																				
その他	円																				
一般財源	6,736,841 円																				
計	6,736,841 円																				

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	問題を抱える児童生徒及び家庭は年々増加、多種・多様化しており、支援のニーズは高い。	<p>年々問題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、特に家庭問題での福祉・保健・医療等関係機関との連携が重要となっている。</p> <p>【成果】関係機関(児童家庭課、児童相談所、警察署、病院等)とのケース会議が開催され、支援体制の構築が強化されている。</p> <p>【課題】現在4名体制で業務を行っているが、相談件数が多く、特に離島である伊良部地区の支援が十分にできていないことが挙げられる。また、教育相談室との連携を強化し、職務の特質を生かした支援の展開が必要である。</p>
効率性	派遣型の体制で各学校からの支援要請により、生徒指導主任を中心とした行動連携を図っている。	
有効性	状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関との連携や、学校、関係機関を交えてのケース会議を開催し多様な問題の解決を図っている。	

【内部評価】

<p>問題等を抱える幼児児童生徒が増加し、その問題が多様化していく中で、関係機関との連携が重要になっており、特に家庭問題での福祉・医療機関との連携が重要になっている。そういった中で、支援体制の構築が強化されてきているが、相談件数増加への対応とさらなる支援の充実を図っていく必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p>
--	-------------------------------

【外部評価】

<p>いじめや体罰の問題がクローズアップされ市民や保護者の関心の高まりもあり、教育委員会としても本市の実情把握が常に求められると考えられる。</p> <p>防止策や万一起きた時の対応策についても確立する必要がある、これらのことについても、スクールソーシャルワーカーの果たす役割は今後ますます重要になってくると思います。問題を抱える幼児児童生徒に対して現場の教諭との連携、他の関係機関との情報交換を更に強化し、対応策について議論を重ねる必要性も高まってきております。</p> <p>時代背景や家庭の経済状況やめまぐるしく変化する状況を見据え、問題の多様化に対応していかなければならず、本事業の拡充が望まれます。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p>
--	-------------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

Ⅱ 学校教育の充実

【事務事業名】

特別支援事業

【目的・計画概要等】

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導や必要な支援に努めることにある。
このため、宮古島市では障害のある児童生徒に対する教育の一層の充実を図るという観点から、各小・中学校の新たな教育的ニーズに対応するため、特別支援教育派遣事業を行う。

【実施状況】

前年度において、各学校からの特別支援教育支援者依頼書をもとに、配置校を決定し週3日派遣する。特別支援教育支援者は、教育的ニーズのある幼稚園・小・中学校に勤務し、特別支援教育に係る指導方針に基づいた支援を行う。
<平成23年度配置校>
○幼稚園5園：平一幼、東幼、久松幼、鏡原幼、伊良部幼（支援者5名）
○小学校9校：平良第一小、北小、東小、南小、鏡原小、久松小、宮島小、城辺小、上野小（支援者11名）
○中学校3校：池間中、城辺中、下地中（支援者3名）

決算額（財源内訳）

国・県	円
地方債	円
その他	円
一般財源	8,895,100 円
計	8,895,100 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	従来の特殊教育対象の障害だけでなく、LD（学習障害）やADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症も含めて、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて一人一人の教育的ニーズへの支援の要望が高い。	障害のある児童生徒に対するなお一層の教育の充実を図る観点から、各学校の教育的ニーズに対応する支援員の派遣事業は今後とも充実強化する必要がある。 <成果>①支援員配置により、各学校で障害のある児童生徒の細かな対応ができ、意欲的な学習面や生活面の困難を改善・克服することができている。 <課題>①週3日派遣は、断片的な対応になるため週5日の連続した対応が望ましい。②専門的な知識を持った支援員の配置ができていない。
効率性	各学校からの支援員派遣依頼が多く、支援員の配置がまだ十分でないが、学校の自助努力により運用している。支援員の人数は最低25名確保したい。	
有効性	対象幼児児童生徒への細かな対応ができ、学習面や生活面の困難を改善・克服することができた。各学校の特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援教育に対する認識の高まりが見られ、保護者からの支援員に対する期待も大きい。	

【内部評価】

特別支援教育を必要とする児童生徒への支援が支援員派遣事業スタート後、充実・改善され障害のある児童への充実強化されてきている。これらの事業は学校からの要望等も高く、さらなる充実強化が望まれる。また、週5日の勤務形態で連続した児童生徒への対応が図られ、さらなる成果が期待できる。

総合評価
A
(拡充)

【外部評価】

特別支援教育制度化後の現状はだいぶ浸透しているが、専門担当者の配置は十分とは言えない。
本市の積極的支援事業のお陰で現場の学習指導への援助および子供たちの相互扶助精神が育成されていることは、高く評価できる。
個性教育の重要性や複雑化する特別支援教育の充実にご尽力願いたい。

総合評価
A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評

課 名：生涯学習振興課

【主要施策】

V 青少年の健全育成

【事務事業名】

「宮古島市放課後子ども教室」事業

【目的・計画概要等】

(目的)

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）づくりを設け、放課後や週末に地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動などの様々な体験活動（学習）や地域住民との交流活動を実施する。

(計画概要)

- ①教材作成の補助、クラブ・部活動補助、放課後の補習等。
- ②道徳・職業講話、伝統技能芸能指導、図工（技術科）・家庭科の支援等。
- ③登下校の見守り、交通安全指導、授業中の見守り、校外学習時の引率等。
- ④朝のあいさつ運動、校内環境整備、昔遊び、戦争講話、おはなし会等。

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成23年6月1日～平成24年2月28日 開催場所：各小学校 ・宮古島市放課後子ども教室は11校 ・各40回開催いたしました ・参加児童数、延べ総数10,348名 ・安全管理委員、延べ総数891名 ・学習アドバイザー、延べ総数891名 ・ボランティア、延べ総数245名 <p>放課後子ども教室には、子どもを見守りさまざまな体験活動を支える立場として、「安全管理員」を、子どもたちの学習活動の指導者として「学習アドバイザー」を配置します。地域の方々が、この安全管理員と学習アドバイザーとなって参画し、子どもの安全に配慮しながら体験活動や学習活動を指導することになります。</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	2,473,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,301,598 円
計	3,774,598 円	

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	地域の歴史など先生方では難しい部分を地域の方によって教えてもらっている。	学校に地域の大人が入り込むことによって、あいさつや大人との交流の機会が増えております。また、地域の方の学習成果をいかす場が広がり、高齢者の方の生きがいがづくりにもつながっている。地域の方の専門知識や技能をいかして、授業のサポートを行うことで、子どもひとりひとりに対して安全性を高め、きめ細かい指導や、社会的に幅広い知識・技能の習得につながられます。
効率性	先生方のお手伝い（学校支援）をすることで少しでも仕事量の軽減になっている。	
有効性	地域・子ども・学校（先生方）の交流の機会が持っている。	

【内部評価】

<p>本事業は国（文科省）が2004年に「地域子ども教室推進事業」として実施し、2007年から支援の仕組みを一部変更して継続されている事業であるが、その間にも、少子高齢化や核家族の進展は加速し、地域全体で子どもを育て、育む意識が薄くなっている現状があり、今後とも各地域性が発揮できるような取組が必要である。</p>	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

<p>本事業は効率よく活用され、目的である安心、安全な子供達の放課後の居場所づくりのための活動が行われている。</p> <p>行政と地域ボランティア、人材バンクとの連携に依り活動の内容を更に広いものにするのが望まれ、その中で世代間交流の輪が広がれば、地域全体で子供達の育成をするという気運が醸成されるのではないかと考えます。そして、児童の社会性や豊かな人間性をも育むことができ、事業の目的が達成されると思います。放課後子供教室実施校の活動の成果を広く地域の方々に周知し、空き教室の利用やバラエティーにとんだ企画、そして、コーディネーターの増員も含め、今後も活動の充実拡充を図ることが望まれます。</p>	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 伊良部分室

【主要施策】

V 青少年の健全育成

【事務事業名】

成人式事業

【目的・計画概要等】

◎目的： 晴れて成人の仲間入りをする若者たちの輝かしい門出にあたり、社会人としての自覚と責任をもって活躍することを期待し、祝福し激励する。

◎事業計画

- ①対象者：伊良部・佐良浜地区成人者（77名） 予算額 30,000円
- ②日時等：平成24年1月5日 伊良部公民館
受付13:30 式典14:00～16:00
- ③式典：オープニング（とうがにあやぐ・湧川絢子 他）
第一部（開式のことば・式辞・祝辞・誓いのことば・閉式のことば）
第二部（成人式祝賀会：伊良部地域づくり協議会）
- ④記念撮影：成人者全員

【実施状況】

本年の伊良部地区成人式は、新成人77人（男40人、女37人）が晴れて大人の仲間入りし、保護者や大勢の出席者から祝福を受けた。式典は午後2時から始まり、市長の式辞、議会副議長の祝辞の後、新成人の代表が感謝と今後の抱負を述べた。第二部は、伊良部地域づくり協議会主催のもと、新成人と地域の方々との祝賀会があり、将来の夢・伊良部への思い等を語り合い成人としての自覚を新たにされた。主催者側からも激励のあいさつがあり、終始、なごやかな雰囲気につつまれた。

決算額（財源内訳）	
国・県	円
地方債	円
その他	円
一般財源	30,000 円
計	30,000 円

【担当者説明】

区分	評価	担当者（主管課）コメント
必要性	事前に開催日等についての問い合わせも多く、ニーズは高い。 市主催は妥当	今年の成人式は、新成人77人中72人（93.5%）が出席し、日程どおり開催できた。 伊良部地区の成人式は、本年も高出席率で関係者からも好評であった。新成人者数は毎年減少しており、開催日や会場等で多くの意見もあるが、式典終了後、伊良部地域づくり協議会主催で、祝賀会を催し、来賓・地域住民等と成人者が交流深めたことは、有意義でありこれからも継続してほしいと多くの声があった。
効率性	日時や内容的にも効率性は高い。	
有効性	新成人者の式典参加率が高く、効果は得られている。	

【内部評価】

伊良部大橋開通後の伊良部地区における成人式典は、宮古本島の会場への参加も検討される所でありましたが、平成24年度から本市の成人式典は旧市町村ごとに分散し開催することで一定の成果と評価を得ており、伊良部地区も当面、現状の形態でよいと考える。

総合評価
B (継続)

【外部評価】

生まれ育ってきた地域で、身近な先輩方に見守られながらの成人式は社会人として自覚を促す意味で有意義な事業です。
今後も伊良部地域づくり協議会との連携のもと、先輩からの講話等さまざまな企画で新成人者の節目のイベントとして創意工夫をし、継続していただきたい。

総合評価
B (継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 伊良部分室

【主要施策】

V 青少年の健全育成

【事務事業名】

追い込み漁・鰹一本釣体験学習事業

【目的・計画概要等】

- ◎目的： 追い込み漁、鰹一本釣り及び鰹加工業を体験することにより、地域の第一次産業への理解と水産業に関する基礎知識の習得と世代間交流を図ることを目的とする。
- ◎事業計画： 体験学習事業実施校（佐良浜中学校全生徒） 実施時期（7月） 予算額 180,000円
- ①鰹一本釣及び加工体験
- ・鰹一本釣体験： 3年男子（11名）3年女子（6名）保護者、教員（7名）
鰹船（2隻）小型漁船（2隻）
 - ・鰹加工体験： 3年女子（10名）地域鰹節工場（3カ所）
- ②追い込み漁、郷土料理（魚料理）体験
- ・追い込み漁体験： 1・2年男子（32名）保護者、教員（8名）
サバニ（1隻）小型漁船（6隻）
 - ・郷土料理体験： 1・2年女子（22名）保護者（20名）

【実施状況】

◎鰹一本釣及び加工体験（7月31日） 前日から漁協で待機し、午前1時から2時頃にかけて3年生17名（男子11名・女子6名）が鰹船2隻と小型漁船2隻に分乗してそれぞれの漁場へ出港、明け方から釣り始め午後3時頃までには全船が帰港する。 3年女子（10名）は、地元の鰹節加工場3カ所で鰹の3枚おろしを体験し、鰹節が出来上がるまでの工程を従業員から説明をうける。 ◎追い込み漁及び郷土料理体験（7月26日） 1・2年生男子32名は朝9時頃から伊良部島北側の珊瑚礁で網を張り、陸側から全員で泳ぎながら魚を追い込んでいく漁法を体験。場所を変えて4回～5回の追い込み漁を実施し昼前に帰港し魚の水揚げを行う。 1・2年女子（22名）は男子が水揚げした魚をさばき、保護者の指導で郷土料理を調理し、全員で昼食会を行う。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	180,000 円
	計	180,000 円

【担当者説明】

区分	評価	担当者（主管課）コメント
必要性	地域や学校からのニーズは高い。 関係機関（保安庁・漁協・船主）への許可申請や協力船舶の確保等の手続きがあるため、市の関与が望ましい。	本事業は、学校や地域からの継続実施のニーズが高く、地域の第一次産業の継続発展において、今後も継続して実施する必要がある。 ただし、海上保安署や伊良部漁協・船主組合・鰹節工場等の協力により本事業を実施しているが海上での体験学習であるため、安全面において十分な配慮が必要なことから日程調整に時間を要する事業であり市が関与しての継続実施が望ましい。
効率性	年一回の体験学習であるが、事業の効率性は高い。	
有効性	生徒たちにとっては身近な産業であるが、初体験の生徒が多い中、関係者の熱心な指導で効果は得られている。	

【内部評価】

本事業は、学校・地域からの継続要望が高い事業である。また、地域の文化・伝統の継承の観点からも継続すべき事業と考える。しかし、単一校の事業となっており学校への予算措置を図り、学校の主体性を活かした事業へと改善・充実を図っていく必要があると考える。	総合評価 C (改善)
--	-------------------

【外部評価】

地域に根ざした第一次産業・水産業であるが、身近にありながら体験の機会が無い子供達にとっては地元の産業を把握する貴重な体験事業であり、人的成長にも大きく影響を与えるものと思います。 継続の為に継続の諸環境（海上保安庁・漁協・船主・加工場等）を行政が整えた上で、将来学校側の地域と連携した伝統行事へと定着する事が適当と考えます	総合評価 C (改善)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：生涯学習振興課

【主要施策】

VI 社会教育の充実

【事務事業名】

社会教育指導者研修会

【目的・計画概要等】

社会教育の指導者に対して、資質向上と活動の活性化を図る目的で研修会を実施しています。各社会教育団体の課題やニーズにあった内容の研修会を実施します。

- 少年団体育成者研修会 5月21日
- PTA指導者研修会 7月9日
- 少年団リーダー研修会 7月28日 7月29日
- 高齢者リーダー研修会 10月18日
- 女性リーダー研修会 12月4日

【実施状況】

○少年団体育成者研修会 5月21日 演習：「楽しく学び子どもを危険から守る。KYT」 ○PTA指導者研修会 7月9日 テーマ「挑戦し続けること。」 ○少年団リーダー研修会 7月28日 7月29日 ○高齢者リーダー研修会 10月18日 テーマ「宮古の伝承世界」 ○女性リーダー研修会 12月4日 テーマ「島嶼型低炭素社会システムについて」 今回は、5つの団体に対し、研修会を実施しました。島外から講師を招き、また、島内に住む日本代表選手の体験から得る講話も実施出来ました。	参加者：32名	決算額（財源内訳）	
	参加者：76名	国・県	円
	参加者：25名 参加者：100名	地方債	円
	参加者：25名	その他	円
		一般財源	213,120 円
		計	213,120 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	社会教育団体として活動するにあたり、様々な知識を身につけ、団体活動に寄与するため関与は妥当。	社会教育指導者研修会は、各種団体と協力して開催しており、現状として抱えている課題や、新しい知識を得て活動に役立っている。テーマの設定や講師依頼は苦勞しており、参加者の高いニーズに応えるためそれなりの人選が必要である。そのためには、島外の講師を積極的に取り入れていくことも必要である。
効率性	各種イベントが多く日程の調整や、講師を探すことが課題。	
有効性	知識を得て、団体活動をしていくなかでの糧となっている。	

【内部評価】

宮古島市の島づくりの基本理念のひとつである「地域の特性が活かされ、心のかよう結いの島づくり」の構築のためには、社会教育団体の活動の活性化は必要不可欠であり、各団体等の組織の充実、発展、拡大につなげるための指導者研修会はこれからも、積極的に取り組むことが大事である。	総合評価 A （拡充）
--	-------------------

【外部評価】

市民の多様化、高度化する学習ニーズに応えるためには、学習活動の場の拡充と指導者の資質の向上が重要であり、この事業の果たす役割は大きなものがあります。 宮古島市の社会教育向上のため、指導者研修会の成果を社会教育団体の活性化につなげていけるよう今後とも継続し取り組んでいただきたい。	総合評価 A （拡充）
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：宮古島市総合博物館

【主要施策】

VI 社会教育の充実

【事務事業名】

子ども博物館

【目的・計画概要等】

宮古島市総合博物館の教育普及活動の一環として、小学校5、6年生を対象に「子ども博物館」を実施し、宮古の自然・歴史・民俗・文化等に関する体験学習を通して郷土に関する認識を深める。

【実施状況】

定員20人から30人 参加料：無料 第1回「開講式・文化財巡りー東平安名崎の自然と歴史」 （平成23年5月22日）講師：博物館職員 第2回「博物館探検」（平成23年6月12日）講師：博物館職員 第3回「サンゴの観察会」（平成23年7月31日）講師：梶原健次 第4回「湧水の自然環境」（平成23年8月21日）講師：藤田喜久 第5回「シャコガイで斧をつくろう」（平成23年10月16日）講師：博物館職員 第6回「無土器時代の料理をしよう」（平成24年1月29日）講師：博物館職員 第7回「植物観察会とジュウづくり・閉講式」（平成24年3月11日）講師：川上勲	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	159,000 円
	計	159,000 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	宮古島市の民俗や歴史、自然を専門家の講師を招いて実際に体験できるものとして、参加者や問い合わせ数からもニーズは高いといえる。	現在、学校でも郷土の歴史、民俗、自然を学ぶことは重要視されてきている。博物館では、各分野の専門家を講師として招き、体験学習を行うことで、子どもたちの理解が深められる。 また、異なる学校から参加する受講生が交流を深める場としても有効である。子ども博物館には2年続けて受講する生徒も多いことから、博物館も毎年異なる講座メニューを設定して、魅力ある事業づくりを展開している。
効率性	事業費（コスト）に比して受講人数及び、学習内容、回数は充実しており、効率性は高いといえる。	
有効性	実際の体験学習を通して講師への質問は多く、活発に受講している姿が見られる。また、翌年度において兄弟での参加も多くその有効性は高いといえる。	

【内部評価】

総合博物館が開館後、20年以上も継続して実施している本事業は、市の児童が郷土の自然、歴史、文化等に関する意識を深め、関心を高める効果的な事業を実施しており、島の将来を見据えた形での創意工夫した講座等も図る必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

最近目まぐるしく情報が氾濫する中で、パソコン・ゲーム機の急速な普及により子供達の時間の過ごし方も偏って来てる様に思われます。色々な場面を体験する機会が少なくなりつつ有る中で子供博物館の行事（生まれ育った地域の自然を観察する・古きを知る・生きる術を知る等）は大変貴重な体験の場だと思います。地元で居ながら地元を知らない子供に限らず親にとっても貴重な体験の場と成ります。回を重ねながら将来博物館に子供達のサークルが誕生し、子供達が工夫し企画する子供博物館の行事が一つでも出来れば宮古の子供達も更に成長する事と思います。博物館に関心の有る子供達がたくさん増える事を期待する。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市立図書館

【主要施策】

VI 社会教育の充実

【事務事業名】

①図書館基本サービスの充実 ②図書館行事の充実 ③島ぬ宝育成情報支援プロジェクトの推進

【目的・計画概要等】

1. 図書館サービスの充実
親切・丁寧な貸出サービスを基本にレファレンス（読書推進）リクエスト（予約）、相互貸借等のサービスを充実させる。
2. 図書館行事の充実
おはなし会（平良館・城辺館）
おはなし・読み聞かせ等を通して子ども達の豊かな情操を育みながら早期読書習慣の定着を図る。
ブックトーク（平良館）
テーマに沿った数冊の本を紹介し読書案内を行い関連書の貸し出しを促進する。
サマースクール（城辺館）
夏休み期間に、読書と画表現の楽しさを経験し読書意欲を高める。
3. 「島ぬ宝育成情報支援プロジェクト」
市民生活課・児童家庭課と連携し、図書館利用案内・おすすめ資料リストを子ども達へ提供し図書館利用の促進を図る。

【実施状況】

	平良館	北分館	城辺館
登録率	32.8%（システム統合により全体率抽出）		
貸出冊数	119,679	2,021	34,267
利用者数	50,948	6,415	12,442
レファレンス件数	1,394	25	384
リクエスト件数	460	20	64

3館の資料貸出総数は前年度対比で24.7%増で内訳は、平良館37.7%増北分館66%減城辺館6.4%増となっている。又、レファレンス・リクエスト等のサービス利用も大幅増加した。

決算額（財源内訳）	
国・県	円
地方債	円
その他	円
一般財源	140,872,671 円
計	140,872,671 円

	平良館	北分館	城辺館
おはなし会	43回 1,331人	—	11回 427人
子どもシター（おはなしひろば）	1回 58人	—	1回 32人
ブックトーク	1回 32人	—	—
平和資料展	—	—	月18日～22日 152人
サマースクール	—	—	2回 145人
郷土史講座	—	9回 272人	—
DVD上映会	2回 80人	—	—
夏休みワクワクシアター	—	—	1回 25人
学級招待	—	—	1回 17人
一日図書館員	—	—	1回 2人
クリスマス会	1回 111人	—	—
移動図書館車おはなし会	2回 120人	—	—
島ぬ宝育成情報支援プロジェクト	—	600枚	—

図書館ボランティアと連携し行事を実施した。公立図書館のない伊良部地区で移動図書館車おはなし会を実施し、好評を得た。北分館の郷土史講座は受講者全員から次年度開催の要望を得た。クリスマス会は過去最高参加者と貸出冊数となった。新規事業として「島ぬ宝育成情報支援プロジェクト」は市民生活課で出生届受理後市長直筆のしおりと図書館利用カード申請書、おすすめリストを提供した。また、児童家庭課と連携して保育園児へ年齢毎のおすすめリスト、保護者へ図書館利用方法説明書を配布した。就学時前幼稚園児へ利用カード申請書と移動図書館車の説明書を配布した。

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	図書館は、図書館法に基づき市民の学ぶ権利、知る権利を遵守し適切な資料の提供を行い市民の生涯学習に寄与する社会教育施設。	平成23年度は、貸出冊数が3館合計で155,967冊と対前年度比で約31%の大幅な増を示した。これは、利用者のニーズに沿った選書と積極的な情報提供が要因の1つに挙げられる。市民のアンケート調査でも図書館へ好意的な意見が多数寄せられており、平成23年度事務事業は概ね評価されるものと判断している。3館同一システムによる事業拡大でレファレンス、相互貸借、リクエスト等のサービスも利用者へ定着した。又、新事業の「島ぬ宝育成情報支援プロジェクト」を経費を要さず実施し図書館利用向上へ繋がった。今後も予算確保に努め更なる利用者数、蔵書数、貸出冊数、サービスの向上を目指したい。
効率性	県内類似市立図書館と比べて資料購入費は少ないが、貸出冊数は大幅に増えた。行事費もさほど経費を要さない。	
有効性	貸出冊数及び利用者数等大幅に増えている。市民のアンケート調査でも図書館への期待感が高く、効果は得られている。	

【内部評価】

本市は新図書館建設に向けての取り組みをする一方で、新図書館の供用開始を念頭におきながら、現図書館の利活用、利便性の向上等、様々な施策を講じている。市民の図書館に関する関心も高まっており、今後更に、取り組みの強化を図る必要がある。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

図書館の利用者増及び諸事業は、豊かな人生および社会向上へとつながり、本事業の貢献に感謝する。 更にニーズや創造性豊かな定期的イベント等の開催をお願いしたい。時季を得た地域や県、国、地球的な大切なイベント等の展示・広報を兼ねた開催により、人々の認識を深め行動化し、明るい社会の構築へと期待が持てる。図書館は知識の宝庫であり、健全育成にも大きく寄与する。建設予定の新図書館は市民が誇り、活用しやすいモデル図書館にしてみたい。	総合評価
	B (継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：宮古島市中央公民館

【主要施策】

VI 社会教育の充実

【事務事業名】

公民館管理運営事業

【目的・計画概要等】

目的：市民のために実生活に即する教育・学術及び文化に関する事業を行ない、もって市民の教育の向上、健康の増進、情操の純粋、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するため、市民のニーズに応じた各種講座を開設している。

計画概要等：

公民館名	主な講座名
中央公民館	花づくり講座、革工芸講座、パソコン講座、写真De俳句、はじめての三線講座等
城辺公民館	城辺高齢者大学、日本語講座、テトレッチ講座、絵画教室、親子陶芸教室等
上野公民館	ヨガ講座、三線講座、いきいきシルバー講座、夏休み子ども英会話教室（低学年・高学年）
下地公民館	タカラ学校講座、パソコン講座、ストレッチ講座、三線講座、手芸（チガヤ）講座等
伊良部公民館	和裁講座、着付け講座、三線講座、夏休み児童絵画教室、琉球舞踊講座等

【実施状況】

公民館名	講座数	回数	募集定員	受講者数 (延べ)	決算額 (円)	決算額（財源内訳）	
						国・県	円
中央公民館	45	257	1,084	3,905	1,646,000	地方債	円
城辺公民館	14	112	250	1,079	686,000	その他	円
上野公民館	10	82	190	1,012	438,000	一般財源	3,568,000 円
下地公民館	10	76	200	873	498,000	計	3,568,000 円
伊良部公民館	7	50	91	503	300,000		
合 計	86	577	1,815	7,372	3,568,000		

※中央公民館には、久松、西原、下崎3地区の公民館を含む

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	公民館に対する市民の学習ニーズは高く、どの講座においても募集定員を超える申し込みがあり、公民館講座の拡充が必要である。	公民館に対する市民のニーズは、年々高まっており各講座とも募集定員を上回る申し込みがある。市民の多様な学習ニーズに応えるためには、公民館講座の拡充が不可欠であるが、限られた予算や社会教育主事等の専門的な資格をもった職員の不足など問題も多く、講座の内容は主に基礎的な面の習得に留まっているのが実情である。よって、講座終了後は、サークル活動に学習の場を移行し、更なる学習の継続を勧めている。
効率性	参加者に対してアンケート調査を実施し、市民の学習要求を把握し、要望や必要課題等を講座計画に取り入れて新事業への効率性を高めている。	
有効性	各講座は、市民のニーズに沿った内容・課題で行なわれており、講師と受講生（市民）が一体となり、学習している。	

【内部評価】

公民館事業は、市町村合併後も中央公民館を中心に各公民館とも連帯を図りながら、各種講座を開設して市民のニーズに対応しており、一部の公民館では児童生徒の交流事業も実施している。各公民館では地域生の伴った講座等も開設して更なる講座内容の充実も図る必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

多くの公民館講座を企画・実施しており、市民の身近な生涯学習の場と化し、人生をより豊かに過ごし、文化の継承および発展向上につながっている。 講座内容やニーズも多岐にわたり、相互のコミュニケーションも深まり、平和で明るい社会形成に大きく寄与している。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：生涯学習振興課

【主要施策】

VIII 文化の振興

【事務事業名】

文化祭事業「児童・生徒の部」・「一般（春・秋）の部」

【目的・計画概要等】

- 1) 児童・生徒の部 目的：次世代の文化の担い手を育み、新しい文化の創造や先人達から培ってきた地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、宮古島市の文化を広く発信する。
 ○展示部門（書道展・美術展・文芸展（作文／詩・俳句・短歌）・自由研究展）
 ○発表部門（高校生の主張大会・郷土の民話大会・音楽祭） ○表彰式
 ※当初予算額：1,251,000円（文化祭事業費）
- 2) 一般（春・秋）の部 目的：市民の各層各位の創造的活動に根ざした文化のまちづくり。
 ○展示部門（書道展・美術展・華道展・写真展・文芸展・生活文化展） ○郷土史部門
 ○児童文化（こどもシアター） ○音楽祭 ○芸能祭 ○芸術劇場
 ※当初予算額：1,000,000円（宮古島市文化協会へ委託）

【実施状況】

1) 児童・生徒の部 ○展示部門 10月29日・30日（書道展・美術展・文芸展・自由研究展） ○発表部門 10月5日（高校生の主張大会） 11月12日（音楽祭） 11月13日（郷土の民話大会） ※決算額：1,100,007円 出品・出演状況：小（3576点）中（821点）高（482点）特支援（96点） 2) 一般（春・秋）の部 ○展示部門 7月9日・10日（春の部）盆栽・園芸・宮古織物・茶道・木工 10月22日・23日（秋の部）写真・美術・文芸・華道・書道・生活文化・郷土史めぐり ※決算額：1,000,000円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,100,077 円
計	2,100,077 円	

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高い。また、市文化行政の要として文化活動への市民参加の促進、関係団体の育成や連携強化に努め、創造性豊かな芸術文化活動の活性化を図るための施策として重要。	文化祭の場を通して市民各層の文化活動の成果を発信することが出来た。文化祭「一般の部」は、春と秋の部に分かれていたが「秋の部」だけの開催とし、より一層の内容の充実を図る。
効率性	「一般の部」は、春・秋を「秋」のみにしてより一層の充実を図り、市文化協会への業務委託によって効率性をより高めることが出来ている。また、「児童・生徒の部」は、行政と学校との協働により事業の効率性を図ることが出来る。	「児童・生徒の部」は、10月から年末に向け短期間に集中し、担当課の業務が煩雑になっている現状を見直し、今後は通年行事として各関連行事にふさわしい時期を検討、分散し、十分な準備態勢を整えていくことが重要と考える。
有効性	年中行事として長年開催され、その効果は大きい。今後とも、市民と行政との協働により、地域文化の継承・発展に寄与する事業として改善・継続していくことが必要。	

【内部評価】

市の文化祭事業は年度ごとに常に検証を加えて、内容、規模等とも最高水準の文化祭として定着させることが大事である。そのことが、宮古島市の自然と風土、歴史と伝統に根ざし、個性ある文化を継承させ幅広い市民文化を創造していくことにつながる。	総合評価 C (改善)
---	-------------------

【外部評価】

一般の部の年2回（春・秋）開催を秋の1回開催することで、市民の緊張と力作等が期待できる。そして、文化祭の趣旨、内容、予算、規模、集客等の面で最高水準に達することが出来ると思う。 児童・生徒の部は、提案どおりで時季を得た各学校の代表・優秀作品等を一堂に会し、内容、技術、技能面等の向上や競い合う力および切磋琢磨することで子供たちの成長も期待できる。	総合評価 B (継続)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VIII 文化の振興 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして

【事務事業名】

文化財保護活動事業

【目的・計画概要等】

平成17年の合併後、宮古島市の抱える指定文化財（国、県、市）は県内最多の145件となり、また、その他指定候補として貴重な文化財も数多く所在している。
これらの文化財の保護を広く周知するため、環境整備や保存活用管理業務、文化財保護審議会等の運営、各管理団体等への指導、学校及び一般市民への文化財に関わる情報提供などを行う。

【実施状況】

宮古島市文化財保護審議会の開催	決算額（財源内訳）	
	第1回・・・平成23年 6月 4日（土）	国・県
第2回・・・平成23年 7月23日（土）	地方債	円
第3回・・・平成23年 9月24日（土）	その他	円
第4回専門部会・・・平成23年11月 5日（土）	一般財源	8,606,969 円
第4回・・・平成23年11月 5日（土）	計	8,606,969 円
第5回・・・平成23年11月19日（土）		
第6回・・・平成23年12月17日（土）		
第7回・・・平成24年 2月18日（土）		
第8回・・・平成24年 3月31日（土）		
※専門部会を含め9回実施。		

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	近年、開発行為申請及び鉱業権出願並びに市有地売買に係る土地について文化財等有無の照会が多く、文化財の適切な保護に努めることができた。	文化財保護と埋蔵文化財発掘調査に係る担当者各1人の体制では、文化財の適切な保存管理に支障を生じており、人員確保にさらなる改善策を図る必要がある。 また、文化財保護審議会については、指定候補物件の現状に応じ、緊急性を要するものから審議を行うものとし、今後も年間6回の基本回数は実施するようにしたい。
効率性	計画的な整備により、文化財の美観や観光資源としての活用が図られ、広く文化財愛護精神を発信することができた。	なお、指定文化財等については、市民への公開の義務も発生するので、環境整備を充実して、より良い公開の場を提供できる取り組みに努めたい。
有効性	後世に伝える、市民（国民）の共有財産として、文化財の保護活用・周知を行うことができた。	

【内部評価】

市の文化財保護行政に対しては市民、地域、関係団体等からの要望等が多岐にわたっており、今年度はそのことも踏まえて、積極的に文化財保護審議会が開催されており、今後、未指定の文化財も含め環境整備や保存・活用に更なる対策を講じる必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

近年の公共・民間の開発行為の増加に伴い文化財の調査・発掘等のスピード化が要求される中、宮古島市においては発掘予備調査・一般14件・公共6件 本発掘調査一般3件・公共7件など予定されている件数も多く、今後も増加すると思われる文化財調査・発掘も含め文化財指定等の増加を考慮すると要員の補充が不可欠と思われる。 将来子供達が宮古島の歴史を辿る上で、幅広い調査資料は大変貴重なメッセージであり、要員不足により支障が出ないよう迅速に増員も含め作業体制の強化が望まれる	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：文化ホール

【主要施策】

VIII 文化の振興

【事務事業名】

宮古島市こども劇団設立事業

【目的・計画概要等】

表現力ワークショップ(目的)

こども劇団の設立に先駆けて、演劇の表現力に触れることで、演劇の魅力を肌で感じ、違う考え方(個性)や自分でも気付かない一面を理解することで、集団におけるコミュニケーション能力の大切さを学び、潜在する自己能力を確かめる機会にする。

- ◆平成23年6月から平成24年1月までの期間に5回実施
- ◆募集資格小学1年生～高校3年生
- ◆育成プログラムに沿って、演劇コミュニケーション・ゲームなどを通して、表現力の基礎を学ぶ。
- ◆大人のためのワークショップ(劇団設立時のサポーター養成の意味を持つ)

【実施状況】

◆大人のためのワークショップ応募人数・・・22名 ◆実施状況:10月/12月/3月	決算額 (財源内訳)	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	1,406,199 円
	一般財源	円
	計	1,406,199 円

【担当者説明】

区分	説 明	担当者(主管課)コメント
必要性	沖縄本島、本土と比べ、演劇鑑賞及び演劇活動が極端に少ない当市にあって演劇に対する関心は高い。総合舞台芸術を推進するにあたり専門家などを積極的に招聘し、演劇活動の支援が必要である。	自主事業などのアンケート結果から演劇に対する市民の関心、演劇公演の要望が高いことが分かっている。それを踏まえ本事業は、市民のニーズに応える意味でも有意義な事業の一つと考える。 劇団設立にあたり、段階的に表現力ワークショップ、オリジナル創作公演の実施、民間への運営移行と、劇団が自立運営が行えるよう、行政の関与の範囲を定め事業展開している。設立検討委員のみなさんの深い論議と、事業への協力など多くの人的支援は本事業の目的達成に期待をしている現れであると思う。
効率性	本事業においては、5年計画で民間への移行を視野に入れ事業展開を行っている。また演劇関係者専門家の導入にあたって、通常の報酬以下で協力を得るなど、旅費についてもコスト削減を図った。	
有効性	H24年度劇団設立を念頭に、ワークショップを企画した。想像以上の応募者があり、関心の高さを確認できた。加えて、劇団設立時の募集がスムーズに進んだ。	

【内部評価】

本事業の成果と課題を踏まえて、次年度設立の市子ども劇団の目的、目指す目標の実現に向けて、しっかりとした組織づくりが必要になってくる。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

本事業は、子供たちの的を射た事業であり、活動をとおして表現力、協調心、責任感や成就感、そして社会性を培い、高い評価が得られている。宮古題材を創作公演し、内外にアピールしていただきたい。演出家や大人たちの協力支援等も順調に進んでおり、今後は楽しみである。 是非、年1・2回の企画公演を開催し、演劇の魅力や子供たちの健全育成活動にご尽力いただきたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：文化ホール

【主要施策】

VIII 文化の振興

【事務事業名】

文化ホール自主文化事業

【目的・計画概要等】

地域独自の風土の中で育まれた文化の育成と、新たな文化と伝統文化の融合・発展を先導するための文化拠点とすることを目的として舞台芸術鑑賞事業・文化育成事業、文化交流事業を実施する。

- ◆文化育成事業 1. (マティダワークショップ)
小・中学生の参加者が劇場内部の見学や、直接、照明機器等の操作を体験して劇場への理解を深めるとともに、舞台裏の仕事を実体験することで、将来の進路、職業等を考える機会を提供することを目的として実施。(毎年実施)
- ◆文化育成事業 2. (マティダライブⅣ)
中・高校生等の若年層の利用喚起と音楽活動等の支援及び人材育成を図ることを目的に平成20年度より毎年実施。
- ◆鑑賞事業 1. (わらび座ミュージカル「アトム」)
マティダ市民劇場開館15周年記念事業として、秋田県の「たざわこ芸術村」を活動拠点とする劇団わらび座によるミュージカル公演を行い、多くの市民に優れた技術鑑賞の機会を提供して文化事業への理解を深めて貰うとともに文化発信の拠点としての役割を果たすことを目的として実施。
- ◆鑑賞事業 2. (宝くじ文化公演/人形芝居「ゲゲゲの鬼太郎～決戦!竜宮城～」)
開館15周年記念事業の第2弾として「人形劇団ひとみ座」による人形劇公演を行い、宮古の子どもたちが舞台芸術の一端を体感して、自らの感性を磨く一助とすることを期待して実施。

【実施状況】

◆マティダワークショップ・・・平成23年7月28日(木)、29日(金) 「舞台づくりのおもしろミニ講座」を2回実施。 参加人数:35名 ◆マティダライブⅣ・・・平成24年2月12日(日) 高校生バンド5組・ダンスチーム3組・書道パフォーマンス2組によるライブ公演 (出演者:74名、ボランティアスタッフ:63名) 入場者数/638名 決算額/歳入:319千円 歳出:538千円 ◆マティダ市民劇場開館15周年記念事業・・・平成23年7月24日(日) 秋田県の劇団わらび座によるミュージカル「アトム」を開催。 入場者数/424名 決算額/歳入:786千円 歳出:2,286千円 ◆マティダ市民劇場開館15周年記念事業・・・平成23年11月25日(金) 「人形劇団ひとみ座」による人形劇「ゲゲゲの鬼太郎」を開催。 入場者数/807名 決算額/歳入:597千円 歳出:340千円	決算額 (財源内訳)	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	1,702,650 円
	一般財源	1,460,508 円
	計	3,163,158 円

【担当者】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	芸術文化に関心の高い人の為だけでなく、多くの市民の芸術文化への理解を促すためには自主事業は不可欠であり、市民のニーズに応えるためにも行政の関与は必然である。	マティダ市民劇場のホール稼働率は地方館としてはかなり高い状況にあり、地域住民の舞台芸術活動と文化の創造に大きく寄与していると考えられる。しかし、自主文化事業については、招聘事業(プロのコンサート等)のような予算のかかる催物ができないのが実情ではあるが、できるだけ多くの市民に芸術文化に親しんで貰うためには、ホールの役割である「アウトリーチ」に積極的に取り組んで地域の伝統芸能や舞台芸術活動の推進を図り、それに伴う人材育成に努めることが重要である。 ※「アウトリーチ」・・・普段、芸術文化に触れる機会の少ない市民に対して、働きかけを行うこと。
効率性	行政が行う舞台芸術事業について費用対効果を数値で示すことは困難ではあるが、事業実施における課題等を整理し、効率的な運営を進めている。	
有効性	本事業については、観客からのアンケートによる評価は高い。特に「マティダライブ」にあっては、学生自らが企画・運営を行なって公演を成功させていることに島外の観客からも高い評価を得ている。	

【内部評価】

今年度は、マティダ市民劇場開館15周年記念事業が実施され、例年以上の取り組みがされましたが、児童生徒が自主的に企画等を行い定着しているマティダライブ等については、今後も積極的に支援をして事業の充実を図ることが大事である。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

今年度は特に周年事業の企画・実施で高質のイベントが開催され、市民に大きく寄与した。今後も文化ホールの目的達成と市民の情操の場、地域文化振興発展のために各種企画公演および市民の自主公演やサークル活動の発表等の支援にもご尽力をいただき、本市の文化発展の拠点となることを願う。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：宮古島市総合博物館

【主要施策】

VIII 文化の振興

【事務事業名】

企画展

【目的・計画概要等】

文化の振興を図ることを目的として、歴史、民俗、芸術、自然科学等に関する企画展を開催し、常設展と併せ市民に広く紹介する。

【実施状況】

第17回企画展「東平安名崎の自然と歴史」 平成23年4月30日～5月29日（入館者：1,458人） 第18回企画展「宮古上布・琉球絣・久米島紬」 平成23年7月26日～9月4日（入館者：1,660人） 第19回企画展「高校生学芸員企画展」 平成23年12月20日～平成24年1月22日（入館者：1,234人） 第20回企画展「さんしん展」 平成24年2月25日～3月18日（入館者：1,111人） 特別展示：慰霊の日関連特別展示「今に残る戦争遺跡」 平成23年6月16日～6月26日（入館者：872人） 特別展示：「平成20年～平成22年度発掘調査展」 平成23年9月21日～10月2日（入館者：502人） 特別展示：文化の日関連特別展示「平成21・22年度新収蔵品展」 平成23年10月25日～11月6日（入館者：471人）	決算額（財源内訳）										
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">国・県</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,000,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">2,000,000 円</td> </tr> </table>	国・県	円	地方債	円	その他	円	一般財源	2,000,000 円	計	2,000,000 円
国・県	円										
地方債	円										
その他	円										
一般財源	2,000,000 円										
計	2,000,000 円										

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	企画展は毎年度、歴史、民俗、自然科学等の各分野毎にテーマを設け、館内外の貴重な資料を見ることのできる場として来館者数からも市民のニーズは非常に高いといえる。	企画展は博物館の業務である「資料の収集・保管」、「展示・教育」、「調査・研究」を総合的に網羅する主要な事業である。毎年度ごとに宮古島の歴史、民俗、芸術、自然科学の各分野のテーマを設けた企画展を実施しており、市町村単位としては県内唯一の総合博物館である。また、企画展以外にも慰霊の日や文化の日に関連した特別展の開催や市外からの研究者による調査成果を報告する博物館講座等は郷土の歴史、民俗、芸術、自然科学の新たな情報（研究成果）を発信する博物館の事業として非常に貴重なものといえる。
効率性	離島であるが故に市外の資料を借用・展示する際の輸送費用があるが、企画展、特別展等、規模や入館者数から見てもその効率性は高いといえる。	
有効性	企画展開催中は来館者も飛躍的に伸びる事から、その効果は、非常に大きいといえる。また、慰霊の日や文化の日などに関連する特別展には学校を始め各種団体見学も多く見られる。	

【内部評価】

「島の文化の振興を図る」目的の実現に向けて、今年度は4回の企画展、3回の特別展を実施し職員の意欲的な取り組みが見られた。今後は更に斬新なアイデア等を取り入れた企画展開催に期待したい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

職員の意気込みが感じられる企画展であり、積極的な取り組みが来館者の刺激になり博物館への興味・期待が増大する事と思います。テーマを設けての企画展は興味のある市民にとっては見聞を広める貴重な機会であり個人の努力では出会え無い場と思います。色々な分野での企画展をすることにより関係する市民のレベルアップにも繋がり、機会があれば市民のアンケートによる企画展も充実発展に繋がると思います	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育施設課

【主要施策】

IX 教育行政の充実

【事務事業名】

砂川小学校校舎改築事業

【目的・計画概要等】

教育環境の充実や安全・安心を図るため、小中学校・幼稚園の校舎及び屋内運動場の整備に努める。

【実施状況】

面積	1,889㎡	決算額（財源内訳）	
		国・県	307,932,000 円
		地方債	166,200,000 円
		その他	円
		一般財源	9,884,002 円
		計	484,016,002 円
工事費	484,016,002円		
工期	平成23年8月30日～平成24年3月23日		

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	昭和56年度以前耐震の校舎で安全性からも早急な改善が必要である。	教育環境の整備を充実する中で、校舎の新改築事業は教育行政の基本であり、今回改築整備された校舎は、老朽化した建物の立て替えを主とした事業であり、新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっています。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができた。
効率性	高コストであるが、安心・安全を優先した結果である。	
有効性	新耐震基準を満たし地震等から児童及び教職員に被害が及ぶ危険性が解消された。	

【内部評価】

新耐震基準に準じた校舎構造になっており、安全で安心な校舎建築になっている。また、玄関やトイレ等のバリアフリー化がなされ、障害のある児童生徒への配慮がなされている。今後とも長期施設整備計画に沿って、幼児児童生徒ならびに教職員の安全・安心な校舎改築に取り組んでいただきたい。	総合評価 E (完了)
---	-------------------

【外部評価】

新基準に沿った校舎建築により子供達・職員の安全・安心が確保されたと思います。今後とも施設の維持管理も含め危険な問題が生じた場合迅速な対応をお願いし、安全・安心な学校施設にしていきたい。	総合評価 E (完了)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育施設課

【主要施策】

IX 教育行政の充実

【事務事業名】

平良中学校校舎改築事業

【目的・計画概要等】

教育環境の充実や安全・安心を図るため、小中学校・幼稚園の校舎及び屋内運動場の整備に努める。

【実施状況】

面積	1,871㎡	決算額（財源内訳）	
		国・県	329,701,000 円
		地方債	250,100,000 円
		その他	円
		一般財源	13,130,247 円
		計	592,931,247 円
工事費	592,931,247円		
工期	平成22年11月24日～平成23年10月31日		

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	昭和56年度以前耐震の校舎で安全性からも早急な改善が必要である。	教育環境の整備を充実する中で、校舎の新改築事業は教育行政の基本であり、今回改築整備された校舎は、老朽化した建物の立て替えを主とした事業であり、新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっています。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができた。
効率性	高コストであるが、安心・安全を優先した結果である。	
有効性	新耐震基準を満たし地震等から児童及び教職員に被害が及ぶ危険性が解消された。	

【内部評価】

本事業は新耐震基準に準じた安全で安心な施設が完成している。今後とも幼児児童生徒ならびに教職員にとって安全・安心な校舎建築に取り組んでいただきたい。	総合評価
	E (完了)

【外部評価】

新基準に沿った校舎建築により子供達・職員の安全・安心が確保されたと思います。今後とも施設の維持管理も含め危険な問題が生じた場合迅速な対応をお願いし、安全・安心な学校施設にしていきたい。	総合評価
	E (完了)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価

課名： 教育施設課

【主要施策】

IX 教育行政の充実

【事務事業名】

池間小中学校校舎改築事業

【目的・計画概要等】

教育環境の充実や安全・安心を図るため、小中学校・幼稚園の校舎及び屋内運動場の整備に努める。

【実施状況】

		決算額（財源内訳）	
		国・県	円
面積	1,707㎡	地方債	199,300,000
工事費	427,965,963円	その他	円
工期	平成22年11月24日～平成23年10月31日	一般財源	△ 15,312,037
		計	427,965,963

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	昭和56年度以前耐震の校舎で安全性からも早急な改善が必要である。	教育環境の整備を充実する中で、校舎の新改築事業は教育行政の基本であり、今回改築整備された校舎は、老朽化した建物の立て替えを主とした事業であり、新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっています。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができた。
効率性	高コストであるが、安心・安全を優先した結果である。	
有効性	新耐震基準を満たし地震等から児童及び教職員に被害が及ぶ危険性が解消された。	

【内部評価】

新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっている。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができた。	総合評価
	E (完了)

【外部評価】

新基準に沿った校舎建築により子供達の安全・安心が確保されたと思います。今後とも施設の維持管理も含め危険な問題等が生じた場合迅速な対応をお願いし、安全・安心な学校施設にしていきたい。	総合評価
	E (完了)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価

課名： 教育施設課

【主要施策】

IX 教育行政の充実

【事務事業名】

西辺幼稚園園舎改築事業

【目的・計画概要等】

教育環境の充実や安全・安心を図るため、小中学校・幼稚園の校舎及び屋内運動場の整備に努める。

【実施状況】

面積 307㎡ 工事費 52,483,800円 工期 平成23年8月3日～平成24年1月31日	決算額（財源内訳）	
	国・県	30,971,000 円
	地方債	33,100,000 円
	その他	円
	一般財源	△ 11,587,200 円
	計	52,483,800 円

【担当者説明】

区分	説 明	担当者（主管課）コメント
必要性	昭和56年度以前耐震の校舎で安全性からも早急な改善が必要である。	教育環境の整備を充実する中で、校舎の新改築事業は教育行政の基本であり、今回改築整備された校舎は、老朽化した建物の立て替えを主とした事業であり、新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっています。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができた。
効率性	高コストであるが、安心・安全を優先した結果である。	
有効性	新耐震基準を満たし地震等から児童及び教職員に被害が及ぶ危険性が解消された。	

【内部評価】

新しい耐震基準に準じた構造となっており安全性・快適性を追求した設計となっている。新耐震基準に準じた安全性・快適性に優れた施設ができている。	総合評価
	E (完了)

【外部評価】

新基準に沿った校舎建築により子供達の安全・安心が確保されたと思います。今後とも施設の維持管理も含め危険な問題等が生じた場合迅速な対応をお願いし、安全・安心な学校施設にしていきたい。	総合評価
	E (完了)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

IX 教育行政の充実

【事務事業名】

宮古島市教育委員会の活動

【目的・計画概要等】

宮古島市における様々な教育課題を解決し、適切な教育行政の運営に資することによって、教育の振興を図ることが教育委員会活動の目的です。その為、具体的には月1回の定例会、必要に応じて臨時会を開催しており、主に教育に関する基本的な方針や規則・要綱の制定などを決定します。

今後も、積極的に地域の実情や住民の意向を把握し、教育施策の展開を図ります。

【実施状況】

会議：定例委員会12回、臨時会11回 学校訪問：55回（入学式・卒業式・運動会・学校訪問等） 研修会：12回（県主催・宮古地区研修会・校長研修会） 学校規模適正化関係：23回（地区説明会・勉強会等） その他：31回（学習会・成人式等）	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,969,271 円
	計	3,969,271 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）コメント
必要性	地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置されている。	各委員とも学校訪問及び県主催又は宮古地区での研修会等、積極的な活動を展開しており、宮古島市、圏域の教育行政の諸課題等に取り組み、教育行政の発展に寄与している。 H23年度においては、学校規模適正化の課題に対しては、先進地視察、各地で基本方針説明会を開催する等積極的な活動を行っている。
効率性	各小中学校の各種行事（入学式・運動会・卒業式等）や県主催の研修会に参加することで宮古島市の教育行政の発展のために積極的な活動をしている。	
有効性	学校規模適正化等教育行政に関わる諸課題などを各委員で議論・協議することで、解決策を見いだしている。	

【内部評価】

学校行事や教育事務所主催の学校訪問等で、各学校職員との意見交換を重ねることができた。今後については、開かれた教育行政を目指して積極的な広報活動に努めていきたい。 また、学校規模適正化に向けた取り組みや公民館、図書館、体育施設の充実に向けた市民からの意見徴取や市民への広報活動にさらに努めていく必要がある。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

宮古島市誕生以来、市教育委員会の貢献が著しい成果につながっている。掲げた教育主要施策の具現化に懸命に取り組んでいる姿は高く評価できる。本年度の特筆は、学校規模適正化に関する行政と地域との説明会や意見交換会等が開催され、少子化に伴い将来を見据えた教育問題が展開されたことが大変有意義である。更なる種々の取り組みをお願い申し上げ、本年度の多大な活動に感謝と御礼を申し上げます。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------